

# 2015年3月期 決算説明会

日本通運株式会社  
代表取締役社長 渡邊 健二

I. 経営状況	P. 1-
II. 外部環境の変化	P. 11
III. 経営計画の進捗状況	P. 12-
IV. 2016年3月期の業績予想	P. 14-
V. 配当の状況	P. 22

2015年5月8日

# I. 経営状況



## A. 2015年3月期決算の概要

### 1) 概要（連結）

（単位：億円、％）

	2015/3期 実績 ①	2014/3期 実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②	増減率 (前年比) ④=③÷②×100	通期予想 (1月30日発表) ⑤	差額 ⑥=①-⑤	率 ⑦=⑥÷⑤×100
売上高	19,249	17,524	1,724	9.8	18,700	549	2.9
営業利益	508	408	99	24.3	450	58	12.9
経常利益	595	501	94	18.8	530	65	12.4
当期 純利益	263	263	0	0.1	300	△36	△12.1

（億円未満切捨て）

### 2) 連結経営指標

（前期実績）

・売上高営業利益率	2.6%	(2.3%)
・売上高経常利益率	3.1%	(2.9%)
・ROE	5.1%	(5.2%)
・ROA	1.9%	(2.0%)

# I. 経営状況



## B. 財政状態

(単位：億円)

	2015/3期	2014/3期	増減
総資産	14,536	13,774	761
自己資本	5,319	4,958	360

## C. キャッシュ・フローの実績

(単位：億円)

	2015/3期 実績 ①	2014/3期 実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②
営業活動によるキャッシュ・フロー (A)	745	578	166
投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	△223	△581	357
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	521	△2	524
財務活動によるキャッシュ・フロー (C)	△336	58	△394
現金及び現金同等物に係る換算差額 (D)	43	66	△22
現金及び現金同等物の増減額 (A+B+C+D)	228	122	106
現金及び現金同等物の期首残高	1,259	1,136	122
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	1	-	1
現金及び現金同等物の期末残高	1,489	1,259	230

Copyright © 2015 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2015年3月期決算説明会資料

2

### ◇財政状態

売上高の増加に伴う、売掛金の増、及び株価の上昇による投資有価証券の増などにより、総資産は、対前年度末761億円、5.5%増加。

### ◇キャッシュ・フローの状況

消費税率の引き上げに伴い、未払消費税が増加したことなどにより、営業活動によるキャッシュ・フローが、166億円増加。

前年にあった子会社株式の取得による支出が減少し、投資活動によるキャッシュ・フローが、357億円増加。

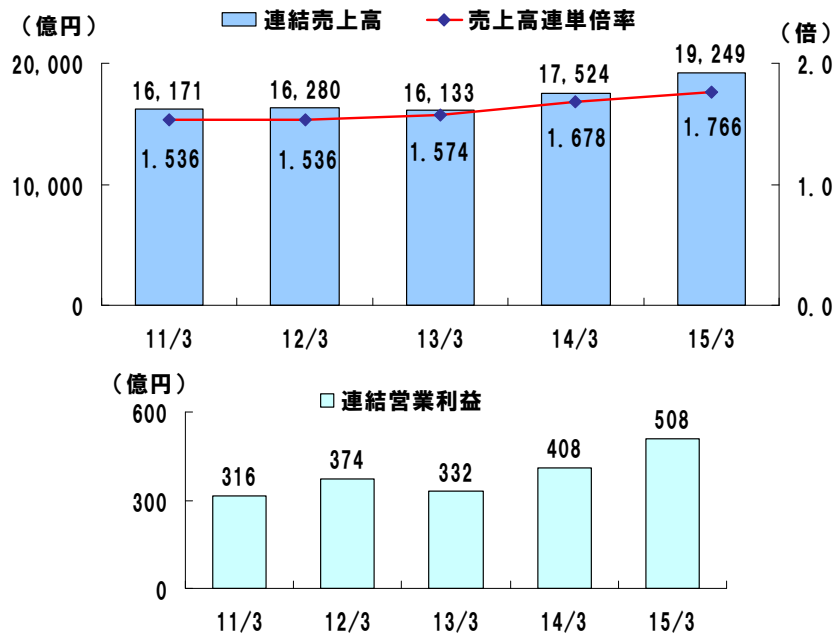
長期借入れによる収入が減少し、財務活動によるキャッシュ・フローが、394億円減少。

※平成27年3月期 第2四半期より、四半期連結キャッシュ・フロー計算書において、資金の範囲を変更。詳細は平成27年3月期 決算短信のP. 24(会計方針の変更)「連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲の変更」を参照。

# I. 経営状況



## D. 直近5年間の売上高、営業利益の推移



Copyright © 2015 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2015年3月期決算説明会資料

3

### ◇売上高の推移

対前年1,724億円、9.8%増加。

第4四半期に米国西岸における港湾の労働争議の影響による特需が発生し、「航空」セグメントが著しく伸びたこと、「重量品建設」セグメントや海外セグメントが好調を維持したこと、新規連結効果により「その他」セグメントが大きく伸長したことなどが要因。

### ◇営業利益の推移

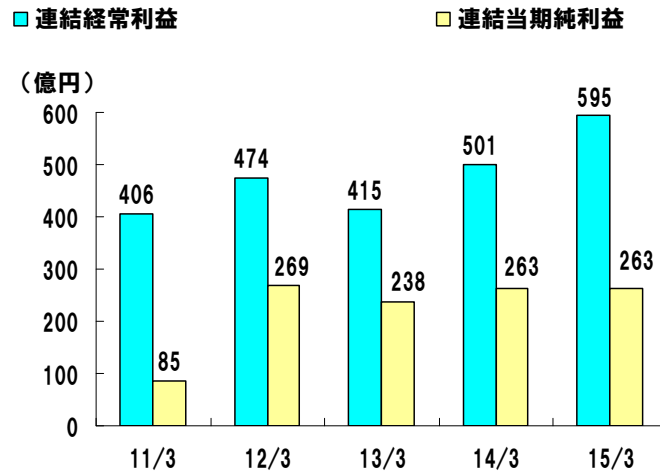
対前年99億円、24.3%増加。

前年対比で、「複合事業」セグメントと海外セグメントが改善したこと、「航空」セグメントが大きく伸長したこと、「販売」セグメントが好調を維持したことなどが要因。

# I. 経営状況



## E. 直近5年間の経常利益と当期純利益の推移



### ◇経常利益の推移

対前年94億円、18.8%増加。

### ◇当期純利益の推移

特別利益が、投資有価証券の売却益が減少したことなどにより、対前年26億円減少。特別損失は、対前年48億円増加。前年に「転進支援措置」に伴う特別加算退職金を計上したが、新東京物流センター(仮称)の建設に伴う、旧東京中央ターミナルの固定資産処分損や、のれんの減損損失、「米国集団訴訟関連引当金」などが発生したことが要因。

# I. 経営状況



## F. セグメント別状況

### 1) 複合事業

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		業績予想(1/30発表)対比				
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	7,423	7,217	206	2.9	7,438	99.8	△14
	セグメント利益	182	151	30	20.0	179	101.3	2
4Q単四半期	売上高	1,875	1,853	21	1.2	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	68	54	14	26.1	3.6 (2.9)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年の消費増税前の駆け込み需要の反動により、鉄道、トラック輸送の取扱いが減少</li> <li>倉庫は食料品関連の取扱いが増加し、通販関連をはじめとするロジスティクス業務も好調を維持</li> <li>3月の引越商戦は、件数・売上げとも前年実績超</li> </ul>						

### 2) 警備輸送

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		業績予想(1/30発表)対比				
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	554	546	7	1.4	556	99.6	△1
	セグメント利益	8	11	△3	△26.4	12	71.1	△3
4Q単四半期	売上高	138	136	1	1.4	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	2	2	0	21.9	1.8 (1.5)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年4月に開始した金融機関の設定便など、新規業務が順調に推移</li> </ul>						

※以下、セグメント毎の概況は、第4四半期単四半期の内容

◇複合事業・・・増収、増益

前年の消費増税前の駆け込み需要の反動により、鉄道取扱、トラック輸送の取扱いが減少。  
倉庫の売上高は、食料品関連の取扱いが増加したほか、通販関連をはじめとする  
ロジスティクス業務の取扱いが、好調を維持したことにより、対前年+3.2%。  
3月の引越商戦は、件数・売上げとも前年実績超。

◇警備輸送・・・増収、増益

昨年4月から始まった金融機関の設定便など、新規業務が順調に推移。

# I. 経営状況



## F. セグメント別状況

### 3) 重量品建設

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(1/30発表)対比			
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	468	366	102	27.9	412	113.8	56
	セグメント利益	21	19	2	12.7	21	102.7	0
4Q単四半期	売上高	111	89	21	24.0	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	4	Δ0	Δ9.6	3.8 (5.2)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内の風力発電・重電関連の取扱いが増加</li> <li>海外の大型プラント工事が売上げを伸ばしたが、前年の重電関連との収益性の違いにより、減益</li> </ul>						

※以下、セグメント毎の概況は、第4四半期単四半期の内容

◇重量品建設・・・増収、減益

国内は、風力発電・重電関連の取扱いが増加。

海外では、マレーシアやベトナムにおける大型プラント工事が計画通りに売上げを伸ばしたが、前年の重電関連工事との収益性の違いにより、減益。

# I. 経営状況



## F. セグメント別状況

### 4) 航空

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(1/30発表)対比			
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	2,107	1,817	290	16.0	1,862	113.2	245
	セグメント利益	101	56	45	81.3	60	167.9	41
4Q単四半期	売上高	685	462	222	48.1	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	55	10	44	404.1	8.0 (2.4)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>米国西岸の港湾労働争議の長期化により、チャーター便輸送を実施し、輸出貨物が大幅に増加</li> <li>輸入貨物、国内貨物は、消費税増税前の駆け込み需要の反動減があったが、堅調に推移</li> </ul>						

### 5) 海運

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(1/30発表)対比			
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	1,188	1,317	△128	△9.8	1,200	99.0	△11
	セグメント利益	49	51	△2	△4.0	45	108.7	3
4Q単四半期	売上高	292	314	△21	△6.9	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	9	5	4	90.6	3.3 (1.6)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>設備輸送関連の輸出が売上げを伸長し、一般商業貨物の取扱いにも回復の兆し</li> <li>内航海運は、消費税増税前の駆け込み需要でトラックから内航船へシフトした反動により、減収</li> <li>商戦期における海外引越の取扱い増により、増益</li> </ul>						

※以下、セグメント毎の概況は、第4四半期単四半期の内容

#### ◇航空・・・増収、増益

日本発輸出貨物の取扱重量は、+46.7%。

方面別の内訳では、米州地域向けが+220.8%、欧州地域向けが△10.0%。

アジア・オセアニア地域向けが+4.3%。

品目別では、欧州向けにおいて自動車・医療機器関連が低迷したものの、米州向けに自動車関連、アジア向けで電子・電機関連の荷動きが活況。米国西岸における港湾の労働争議が長期化した関係で、米州向けに2月、3月と大量のチャーター便輸送を実施し、大幅増収。

輸入貨物、国内貨物の取扱いは、消費税増税前の駆け込み需要の反動減があったが、総じて堅調に推移。

#### ◇海運・・・減収、増益

設備輸送関連の輸出が売上げを伸長。一般商業貨物の取扱いにも回復の兆し。

輸入は、事業用の太陽光パネル関連の荷動きが鈍化した分を、アパレル・青果関連などの取扱い増で補い、前年並みの売上げを確保。

内航海運は、消費税増税前の駆け込み需要でトラックから内航船へシフトした分の反動減により、減収。

第4四半期では、昨年5月の組織改正が売上げに大きく影響し減収となるも商戦期における海外引越の取扱い増により、増益。



# I. 経営状況



## F. セグメント別状況

### 6) 米州

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(1/30発表)対比		
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	791	690	100	14.6	743	106.5	48
	セグメント利益	34	28	5	19.7	30	111.3	3
4Q単四半期	売上高	219	178	40	22.5	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	6	7	△1	△17.6	3.0 (4.4)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>メキシコでの海運・輸入及び航空・輸出フォワーディングの取扱いが、好調を維持</li> <li>米国からメキシコへの航空・転送業務の減少、米国での外注費単価上昇により、減益</li> </ul>						

### 7) 欧州

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(1/30発表)対比		
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	836	727	108	14.9	834	100.3	2
	セグメント利益	23	7	16	232.5	10	221.7	13
4Q単四半期	売上高	236	210	26	12.4	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	5	1	4	354.3	2.4 (0.6)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>航空・輸出フォワーディングの取扱いが、第3四半期に続き、ドイツ、スペインを中心に増加</li> <li>フランコ・ヴァーゴ社の航空・輸出入の取扱いも好調を維持</li> </ul>						

※以下、セグメント毎の概況は、第4四半期単四半期の内容  
海外会社の第4四半期は、10-12月期

#### ◇米州・・・増収、減益

為替の影響を除いた現地通貨ベースにおいても、増収、減益。

自動車関連のお客様が、メキシコにおける生産能力の増強を継続させ、メキシコでの海運・輸入及び航空・輸出フォワーディングの取扱いが好調を維持。一方、米国からメキシコへの航空・転送業務の減少や、米国でのドライバー不足による外注費単価上昇の影響などで、減益。

#### ◇欧州・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースにおいても、増収、増益。

域内のトラック輸送は苦戦をしたものの、第3四半期に引き続き、自動車関連の航空・輸出フォワーディングの取扱いが、ドイツ、スペインを中心に前年比プラスで推移。フランコ・ヴァーゴ社の航空・輸出入の取扱いも好調を維持。

# I. 経営状況



## F. セグメント別状況

### 8) 東アジア

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(1/30発表)対比			
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	1,013	921	91	9.9	1,003	101.0	10
	セグメント利益	19	12	6	54.5	14	133.2	4
4Q単四半期	売上高	279	273	6	2.5	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	2	1	68.2	1.5 (0.9)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現地通貨ベースにおいては、減収、増益</li> <li>・ 中国における航空・海運フォワーディングの取扱いや、華南地域のミルクランの取扱いが好調を維持</li> <li>・ 台湾では、倉庫配送業務が堅調も、前年のスポット貨物の反動で、減収</li> </ul>						

### 9) 南アジア・オセアニア

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(1/30発表)対比			
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	646	513	132	25.8	580	111.4	66
	セグメント利益	9	14	△5	△35.1	15	58.9	△6
4Q単四半期	売上高	191	137	54	39.6	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	△1	4	△5	△128.2	△0.7 (3.3)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域全体で航空・輸出入の取扱いが増加し、倉庫配送を中心とする域内ビジネスも堅調に推移</li> <li>・ 事業拡大に伴う初期費用のほかに各種コストも増加し、減益</li> </ul>						

※以下、セグメント毎の概況は、第4四半期単四半期の内容  
海外会社の第4四半期は、10-12月期

#### ◇東アジア・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースにおいては、減収、増益。

中国は、自動車関連、電子・電機関連の航空・海運フォワーディングの取扱いや、華南地域における自動車関連のミルクランの取扱いが好調を維持。  
台湾では倉庫配送業務は堅調も、前年の大型スポット貨物の反動で減収。

#### ◇南アジア・オセアニア・・・増収、減益

為替の影響を除いた現地通貨ベースにおいても、増収、減益。

地域全体において、航空・輸出入の取扱いが増加。倉庫配送を中心とする域内ビジネスも堅調に推移。昨年12月にミャンマー日本通運を設立、本年1月から営業を開始するなど、積極的に事業を展開。

事業拡大に伴う初期費用と、人件費、利用費、外注費の増加により減益。

# I. 経営状況



## F. セグメント別状況

### 10) 販売

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(1/30発表)対比			
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	4,201	4,128	73	1.8	4,225	99.4	△23
	セグメント利益	64	48	15	32.3	54	117.2	9
4Q単四半期	売上高	988	1,134	△145	△12.8	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	18	14	3	25.2	1.8 (1.3)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>石油類の販売単価が下落したことにより、減収</li> <li>輸出梱包業務などのロジスティクス・サポート事業が引き続き堅調に推移し、増益</li> </ul>						

### 11) その他

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(1/30発表)対比			
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	1,436	614	821	133.7	1,394	103.0	42
	セグメント利益	26	20	6	30.9	23	110.6	2
4Q単四半期	売上高	452	306	146	47.6	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	8	10	△2	△24.2	1.8 (3.5)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3四半期から連結子会社化した日通NECロジスティクス社が、売上げの増加に寄与</li> <li>消費増税前の駆け込み需要の反動減があり、減益</li> </ul>						

※以下、セグメント毎の概況は、第4四半期単四半期の内容

#### ◇販売・・・減収、増益

石油類の販売単価が下落し、減収。輸出梱包業務などのロジスティクス・サポート事業が引き続き堅調に推移し、増益。

#### ◇その他・・・増収、減益

日通NECロジスティクス社が、第3四半期から連結子会社となり、売上げの増加に寄与。消費増税前の駆け込み需要の反動減により、減益。

## II. 外部環境の変化



### 増減要素

変動要素	連結（通期）	参考
燃油費単価変動による影響	燃油費 $\Delta 10.8$ 億円 （費用減）	（前年同期） 軽油 : 110.55円/ℓ (114.92円) ガソリン: 144.40円/ℓ (147.21円) 船舶重油: 66.47円/ℓ (71.24円)
為替による影響	売上高 + 219.5 億円 営業利益 + 4.3 億円	年間平均為替レート（※）（前年同期） USD: 105.85円 (97.65円) EUR: 140.42円 (129.68円) HKD: 13.65円 (12.59円) RMB: 17.19円 (15.91円)  第4四半期平均為替レート（前年同期） USD: 114.54円 (100.46円) EUR: 143.07円 (136.69円) HKD: 14.77円 (12.96円) RMB: 18.62円 (16.52円)

（※）年間平均為替レートは参考値。決算では四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用している。

### III. 経営計画の進捗状況



#### 日通グループ経営計画 2015 -改革と躍進-

#### 日通グループ企業理念・ビジョン



数値目標(2016年3月期達成目標)	
売上高	1兆8,000億円
営業利益	540億円
当期純利益	340億円
総資産利益率(ROA)	2.5%
国際関連事業売上高比率	40%
国内複合事業営業利益率	3%
CO2排出量	年平均1.0%以上の削減(*)

(\*) 日通グループとして原単位で2010年3月期を基準

### III. 経営計画の進捗状況



#### 日通グループ経営計画 2015 -改革と躍進- 基本戦略の進捗状況

基本戦略	項目	進捗状況
グローバルロジスティクス 事業の更なる拡大	2016年3月期 国際関連事業売上高比率 40%	2015年3月期実績 34.7% (2015年3月期上半期実績 33.5%) (2014年3月期実績 32.5%)
国内事業の経営体質強化	2016年3月期 国内複合事業営業利益率 3%	2015年3月期実績 2.5% (2015年3月期上半期実績 1.8%) (2014年3月期実績 2.1%)
	<b>【5月1日付組織改正】</b> <b>1. 「関東ブロック」の新設</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>航空、海運事業部を廃止し、それぞれ航空事業支店、海運事業支店として、陸上輸送部門とともに、関東ブロックを新設</li> <li>九州ブロック、関西ブロック、中部ブロックに続き、関東ブロックにおける組織改正の実施により、陸・海・空のワンストップ体制を構築</li> </ul> <b>2. 本社組織の見直し</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>本社組織を見直し、将来の収益の柱となる新規事業開発、商品開発、マーケティング機能を強化</li> <li>グローバル事業強化のために、グローバル関連部署を拡充</li> </ul>	

Copyright © 2015 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2015年3月期決算説明会資料

13

◇国際関連事業売上高比率40%に向けて  
航空・海運の輸出の売上げが回復してきたことに加え、為替の影響により海外会社の売上げが増加した一方、国内の売上げも伸長した結果、34.7%。  
今後は海外、特に南アジアをターゲットに定め、事業拡大に注力。  
M&Aや戦略的業務提携も、積極的に活用。

◇国内複合事業営業利益率3%達成に向けて  
コスト削減に対する取組みとともに、営業力の強化を更に推進し、3%の達成を目指す。  
当社グループを大きく飛躍させるため、53年ぶりとなる組織改正を実施。  
2014年5月より九州ブロック、関西ブロック、中部ブロックにて組織改正を実施。  
5月1日付で、航空、海運事業部を廃止し、それぞれ航空事業支店、海運事業支店として、従来の陸上輸送部門とともに関東ブロックを新設、陸・海・空のワンストップ体制の構築を完了する。  
本社組織も見直し、将来の収益の柱となる新規事業開発、商品開発、マーケティング機能を強化するとともに、グローバル事業強化のために、グローバル関連部署の拡充を図る。

## IV. 2016年3月期の業績予想



### A. 連結業績予想

(単位：億円、%)

	2016/3期予想			2015/3期実績			増減額 (増減率)		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	9,730	10,270	20,000	9,192	10,057	19,249	537 (5.9)	212 (2.1)	750 (3.9)
営業利益	230	310	540	202	306	508	27 (13.9)	3 (1.3)	31 (6.3)
経常利益	280	350	630	250	345	595	29 (12.0)	4 (1.3)	34 (5.8)
当期 純利益	165	175	340	160	103	263	4 (2.8)	71 (69.5)	76 (28.9)

#### ◇業績予想作成の前提となる経済環境

海外経済は、活発な個人消費を背景に、堅調な米国経済が牽引すると見込まれているものの、原油価格の下落に伴うロシア経済の低迷や中国における景気減速などへの懸念から、経済は先行き不透明な状況で推移するものと予測。  
国内経済は企業収益が回復するなか、雇用環境の改善や設備投資の増加などにより、景気は緩やかながらも回復基調で推移する見込み。

#### ◇業績予想作成の前提となる物流業界の状況

国内貨物は、個人消費の持ち直しや企業在庫の減少に伴う生産の回復に加え、一部で製造業の国内回帰などの動きもあり、輸送量の増加を期待。  
国際貨物は、円安の影響もあり輸入に大きな伸びは見込めないものの、輸出は米国向けを中心に、引き続き堅調に推移すると予測。

## IV. 2016年3月期の業績予想



### B. セグメント別状況

#### 1) 複合事業

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率				
売上高	7,432	7,423	8	0.1	・「地方圏」において、地域経済・マーケットの特性に合わせた営業活動を推進 ・オペレーション効率の改善により、採算性を向上			
セグメント利益	219	182	37	20.5				
利益率	3.0	2.5						
上・下半期	上半期				下半期（ご参考）			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	16/3期	15/3期	増減額	増減率
売上高	3,660	3,655	4	0.1	3,772	3,767	4	0.1
セグメント利益	92	64	27	42.9	126	117	9	8.1
利益率	2.5	1.8			3.4	3.1		

#### 2) 警備輸送

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率				
売上高	556	554	1	0.4	・不採算業務の見直しにより、適正料金の収受が図られるなど、収益構造が改善			
セグメント利益	13	8	4	54.5				
利益率	2.4	1.6						
上・下半期	上半期				下半期（ご参考）			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	16/3期	15/3期	増減額	増減率
売上高	278	276	1	0.6	278	277	0	0.1
セグメント利益	5	3	1	47.1	7	4	2	60.4
利益率	2.1	1.4			2.8	1.7		

※5月1日付で組織改正を行ったが、報告セグメントについては、引き続き、従来の区分に則った形で開示。

#### ◇複合事業・・・増収、増益

「三大都市圏」では営業力強化に加え、2017年春に竣工予定の新東京物流センター（仮称）をはじめとして、積極的に投資を拡大。

「地方圏」においても、地域経済・マーケットの特性に合わせた営業活動を推進。ITを活用したオペレーション効率の改善など、採算性の向上に継続して取り組む。料金改定の効果も4月以降、本格化する見込み。

通期で複合事業の営業利益率3%の達成を目指す。

#### ◇警備輸送・・・増収、増益

不採算業務の見直しにより、適正料金の収受が図られるなど、収益構造が改善。一時的に売上げの伸びが鈍化しても、利益は確保できる見込み。



## IV. 2016年3月期の業績予想



### B. セグメント別状況

#### 3) 重量品建設

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率				
売上高	489	468	20	4.3	・ 国内の風力発電・重電関連が増加する見込み ・ 海外の大型プラント工事が継続			
セグメント利益	22	21	1	4.8				
利益率	4.6	4.6						
上・下半期	上半期				下半期（ご参考）			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	16/3期	15/3期	増減額	増減率
売上高	257	246	10	4.4	232	222	9	4.2
セグメント利益	11	11	0	3.1	11	10	0	6.6
利益率	4.5	4.6			4.7	4.6		

#### ◇重量品建設・・・増収、増益

国内においては、前年に需要が多かったシャット・ダウン・メンテナンス業務の反動減の影響はあるものの、風力発電・重電関連の取扱い増を見込む。  
海外においても、大型プラント工事が継続。

## IV. 2016年3月期の業績予想



### B. セグメント別状況

#### 4) 航空

(単位: 億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率				
売上高	1,957	2,107	△150	△7.1	・ 前年の特需の反動減が影響 ・ BILT-2を進化させ、業種別ロジスティクスを拡大			
セグメント利益	75	101	△26	△26.2				
利益率	3.8	4.8						
上・下半期	上半期				下半期 (ご参考)			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	16/3期	15/3期	増減額	増減率
売上高	939	918	20	2.2	1,018	1,188	△170	△14.4
セグメント利益	27	25	1	6.8	47	76	△28	△37.3
利益率	2.9	2.8			4.7	6.4		

#### 5) 海運

(単位: 億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率				
売上高	1,228	1,188	39	3.3	・ 米州向けを中心に、自動車関連設備輸送が継続 ・ 海外引越が上半期も好調を維持する見込み			
セグメント利益	57	49	8	17.7				
利益率	4.7	4.1						
上・下半期	上半期				下半期 (ご参考)			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	16/3期	15/3期	増減額	増減率
売上高	611	596	14	2.4	617	591	25	4.3
セグメント利益	32	29	3	10.3	25	19	5	28.4
利益率	5.3	4.9			4.1	3.4		

Copyright © 2015 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2015年3月期決算説明会資料

17

#### ◇航空・・・減収、減益

特需の反動減の影響は避けられない見込み。輸出では、販売単価が横ばい、仕入単価はやや上昇の傾向を示していることから、物量拡大に努める。

各種サービス料金の適正収受に注力。輸入では、2014年1月から稼動しているBILT-2を進化させ、業種別ロジスティクスの拡大を図る。

#### ◇海運・・・増収、増益

輸出は、米州向けを中心に自動車関連の設備輸送が継続するほか、一般商業貨物も、一定程度の回復を見込む。

輸入では、家庭用の太陽光パネル関連の荷動きが活発化。

内航海運は、燃油費単価下落によりコスト競争力が増しているため、営業拡大を推進。

海外引越は、商戦期が続くこの上半期においても、好調を維持する見込み。

## IV. 2016年3月期の業績予想



### B. セグメント別状況

#### 6) 米州

(単位: 億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率				
売上高	982	791	190	24.1	・ 好調な米国経済を背景に、自動車関連の取扱いが増加見込み			
セグメント利益	41	34	7	21.6				
利益率	4.2	4.3						
上・下半期	上半期				下半期 (ご参考)			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	16/3期	15/3期	増減額	増減率
売上高	494	374	119	31.9	488	417	70	17.0
セグメント利益	22	17	4	28.7	19	16	2	14.2
利益率	4.5	4.6			3.9	4.0		

#### 7) 欧州

(単位: 億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率				
売上高	850	836	13	1.7	・ 欧州経済が緩やかに回復する中、自動車関連の航空フォワーディングが増加 ・ オランダにおける倉庫配送業務が拡大見込み			
セグメント利益	24	23	0	0.2				
利益率	2.8	2.9						
上・下半期	上半期				下半期 (ご参考)			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	16/3期	15/3期	増減額	増減率
売上高	404	395	8	2.1	446	440	5	1.3
セグメント利益	8	10	△1	△18.3	15	13	1	14.5
利益率	2.1	2.6			3.5	3.1		

Copyright © 2015 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2015年3月期決算説明会資料

18

#### ◇米州・・・増収、増益

好調な米国経済を背景に、自動車関連の取扱いが増加見込み。

第1四半期は、特需による航空・輸出入の取扱いが大幅に伸長。

#### ◇欧州・・・増収、増益

地政学的リスクを抱えるものの、欧州経済は緩やかな回復基調。

第1四半期も、航空・輸出フォワーディングの取扱いが自動車関連を中心に増加。

2015年1月から営業開始した、オランダの倉庫配送業務も拡大見込み。

## IV. 2016年3月期の業績予想



### B. セグメント別状況

#### 8) 東アジア

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率				
売上高	1,188	1,013	174	17.3	・ 中国経済の減速が懸念されるものの、中国発航空・輸出フォワーディングの堅調な取扱いを見込む			
セグメント利益	22	19	3	19.7				
利益率	1.9	1.9						
上・下半期	上半期				下半期（ご参考）			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	16/3期	15/3期	増減額	増減率
売上高	578	480	97	20.2	610	532	77	14.6
セグメント利益	9	7	2	32.2	13	11	1	12.0
利益率	1.7	1.5			2.2	2.2		

#### 9) 南アジア・オセアニア

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率				
売上高	788	646	141	22.0	・ 航空・輸出フォワーディングや倉庫配送業務の取扱いが堅調に推移 ・ 投資とともに、各種コストの削減にも注力			
セグメント利益	11	9	2	27.9				
利益率	1.5	1.4						
上・下半期	上半期				下半期（ご参考）			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	16/3期	15/3期	増減額	増減率
売上高	368	291	76	26.1	420	354	65	18.5
セグメント利益	5	6	△1	△15.1	6	2	3	146.2
利益率	1.6	2.3			1.5	0.7		

Copyright © 2015 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2015年3月期決算説明会資料

19

#### ◇東アジア・・・増収、増益

中国経済の減速が懸念されるものの、中国発の航空・輸出フォワーディングの取扱いが、第1四半期も堅調に推移。非日系企業への営業強化や、新たな陸路輸送ルートの構築など、新規ビジネスの開発にも積極的に取り組む。

#### ◇南アジア・オセアニア・・・増収、増益

売上げの拡大に伴う、利益の確保に向けた取組みを推進。

第1四半期には、タイ、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシアでの航空・輸出フォワーディングや倉庫配送業務の取扱いが堅調に推移。

今後もお客様の動向を注視しながら、拠点の機能強化や新拠点の開設など、必要な投資は実行するとともに、各種コストの削減にも注力。

## IV. 2016年3月期の業績予想



### B. セグメント別状況

#### 10) 販売

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率				
売上高	4,115	4,201	△86	△2.1	・ 石油類の販売単価下落により、減収を見込む ・ ロジスティクス・サポート事業は好調を維持し、増益見込み			
セグメント利益	65	64	1	1.7				
利益率	1.6	1.5						
上・下半期	上半期				下半期（ご参考）			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	16/3期	15/3期	増減額	増減率
売上高	1,968	2,084	△116	△5.6	2,147	2,117	29	1.4
セグメント利益	31	27	3	12.2	34	36	△2	△6.3
利益率	1.6	1.3			1.6	1.7		

#### 11) その他

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率				
売上高	1,760	1,436	323	22.6	・ 上半期は、日通NECロジスティクス社が連結子会社となった効果が継続			
セグメント利益	33	26	7	26.7				
利益率	1.9	1.8						
上・下半期	上半期				下半期（ご参考）			
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	16/3期	15/3期	増減額	増減率
売上高	848	538	309	57.5	912	897	14	1.6
セグメント利益	9	7	2	30.8	23	19	4	25.2
利益率	1.1	1.4			2.6	2.1		

#### ◇販売・・・減収、増益

石油類の販売単価下落が継続見込みであるものの、輸出が堅調に推移するなか、ロジスティクス・サポート事業が好調を維持する見込み。

#### ◇その他・・・増収、増益

日通NECロジスティクス社が連結子会社となった効果が、上半期も継続。

## IV. 2016年3月期の業績予想



### C. 外部要因の前提

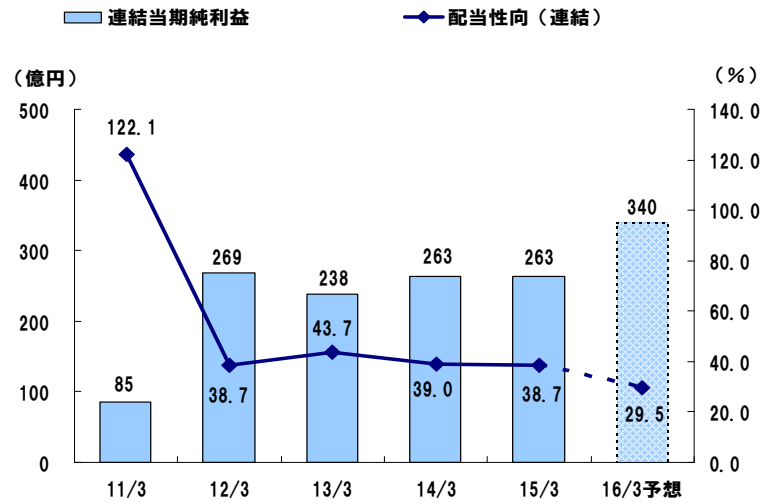
変動要素	連結業績への影響	前提条件
燃油費単価変動による影響	燃油費△49.1億円 (費用減)	(前期年間平均) 軽油 : 88.70円/ℓ (110.55円) ガソリン : 127.07円/ℓ (144.40円) 船舶重油 : 49.53円/ℓ (66.47円) 使用量は前年と同量と想定
為替による影響	売上高 +236.0億円 営業利益 +7.7億円	(前期年間平均 <sup>(※)</sup> ) USD : 119.40円 (105.85円) EUR : 130.90円 (140.42円) HKD : 15.40円 (13.65円) RMB : 19.20円 (17.19円)

(※) 前提となる為替レート及び前年同期レートは参考値。決算では四半期平均レートを各現地四半期実績に適用している。

## V. 配当の状況



### 配当性向の推移と予想





本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。